

2014年  
11月25日  
火曜日

本日お話しする内容は、古くて新しい疑問のひとつ、「なぜ歴史を学ぶ必要があるのか？」についてです。過去には、私自身も中学生の頃までは歴史の勉強が嫌いでその意義に懐疑的でしたし、最近では、自分の子供に歴史学習の意義を問われ返答に窮した経験があります。さすがに大人になると、経験から歴史学習の必要性は認識していますが、これまでこの問題を一度も真剣に考えたことがなかったために、子供を納得させるようないい返答が思い浮かばなかったのです。そのときは「温故知新」という四字熟語を引き合いに出して場を濁したのですが、子供にはこちらの意図がうまく伝わりませんでした。学校の歴史の授業では、学習者側に「なぜ？」という歴史上の疑問が湧く前に先生から話（答え）を聞かされるので、歴史嫌いが

大高博美 教授（言語学）

# 歴史を学ぶ普遍的意義を 考える

増えるのは致し方のないことです。ともあれ、上述の一件以来、私は歴史学習の意義について自分なりに機会あるごとに考えるようになりました。また、この件で他人の意見にも敏感になりました。これまで新聞・雑誌やテレビ等で見聞きした回答は実に様々です。「歴史を学ぶことは自分を学ぶこと」のような哲学的色合いの濃いものから、「現在の現象は過去の出来事の産物であるから、過去を学んで現在を見れば将来が見える」や「過去の失敗に学んで今後の対策に役立てるため」などの実利的な意義を強調するもの、果ては歴史の知識は教養なので知らない人と大人になって笑われる」や「歴史は就職試験の一般常識の部で出題されるので歴史を知らない」と就職できないという「のような教訓的だが学ぶ意義としてはあまり建設的でないものまで

色々あります。これらは、おそらく回答としてはどれも間違っていないでしょう。しかし、私にはどれも普遍的な意義を伝えているようには思えません。いろいろ考えた末に、最終的に私が引き出した、普遍的意味合いを帯びていると思われる回答は、「人生をよりよく楽しむため」です。私たちの生きる目的は、私見では、そこから喜びを得たいがためです。勿論、人生は山あり谷ありですから、楽しいことばかりではありません。しかし、辛いことや悲しいことがあるからこそ楽しさが倍増されるということもあります。もし社会や文化に関心がまったくなく、ただ日に三度食事がとれば満足と考える者がいたとすれば、多くの小中学生が考えるように、歴史の学習など無意味でしょう。楽しむべき人生の貴重な

時間を割いてまで学ぶべき教科ではないと言えます。しかし、このような極端に動物じみた人間はおりません。皆せっかく生まれきたのだから、人生を最大限に楽しみたいと思っているはずですから、だからこそ、私たちにはいろいろな知識がいるのです。歴史は人生を楽しむ上で、明らかに不可欠な知識の一分野です。例えば、旅行先で歴史的建造物や有名な芸術作品に出合った時のことを考えてみましょう。見るだけでもこれらから感銘を受けますが、もし背景にある歴史的経緯を知っていればどうでしょうか。その感銘の度合いはきっと倍増します。このように、歴史は、歴史学者や政治家だけのものではありません。誰にとっても、生きる上で必要な基礎知識（教科）なのです。